

建設系高校生による「建設業に対するイメージアップ」作文の部

優 秀 賞

「建設業の魅力」

愛知県立碧南工科高等学校 建築科3年
久 山 巴 瑠

「建設業」と耳にすると建設業への関心が少ない人にとってはどのようなイメージを描くでしょうか？まず、工事現場のイメージが強く酷暑の中での作業、重い材料を幾度も運ぶなど辛い作業を想像する人が多いかと思います。このようなイメージを覆すには、建設業の魅力を伝え建設業に対するイメージ本質を魅力に変えることが必要と考えます。そこで、私が建設業に感じている魅力を幾つか紹介したいと思います。

一つ目は、道路・鉄道・橋・空港など建造物や人々が住む家は直接、人々が生活していく上でなくてはならない建造物です。その人々の生活を支えることの仕事は、どの産業よりも「やりがい」を感じられるという魅力があります。

また、建造物は後世まで地図に残ることで大きな「やりがい」も感じさせます。

二つ目は、「ものづくり」ができる喜びが体感できることです。例えばコンピューターに指定された文字を入力したり同じ作業を機械的に反復するような仕事とは異なり達成感を味わえることができると思います。同時に「ものづくり」の仕事は、自らの手でつくりあげることによって他の仕事では味わうことができないことも魅力の一つであると思います。

三つ目は、チームで働くことです。建設業の仕事は一般的に大きな規模が多く多岐にわたる分野の専門の技術者や職人さんが一つの建造物の完成を目標に仕事をしています。

年齢や経験など多種多様な人が関わることによってチームワークが大切であり一人では解決できないこともチームワークを発揮することで目標を達成したときの喜びも共有、共感できることも魅力を感じさせます。

四つ目は、住宅を設計する際に住む人の暮らし方やその家族と関わりを持ち、安全で安心に住みやすい家を試行錯誤して設計することに楽しさが感じられます。

建設物は、用途が違えば建設される場所も設計者によってもデザインや感性によりさまざまです。また、見る人によっても全く違う印象や感動を与えら

れることがとても面白く建設業の魅力とも考えられます。

最後に建設業は、次世代の人々が安心・安全に豊かな生活をするために必要不可欠な産業であります。さらに新しい技術や古くからの技能を伝承していかなければならないと思います。

現在、少子高齢化の社会となり他の産業でも若者の人手不足が問題となっています。

その中で「ものづくり」の産業・企業も最新のAIロボットやロボットを導入し、人手不足の解消を進めている時代です。

しかし、建設業は他の製造業と同じようにロボット化はできるとは思えません。

建設業の特徴は、屋外の仕事であり受注生産かつ一品生産であるからです。

建設される場所の調査から始まり設計から施工といった過程で進められていきます。

設計段階での構造計算、設計図は、コンピューターの導入により速く正確にできると思います。しかし、施工の段階での工事現場は、天候になどによって大きく左右されます。

工事現場に必要な材料や建設機械などは日々、進歩していますが各現場により構造形式や施工方法も異なり、現場監督の指揮により各種の熟練された多くの職人さん達の手によって建造物をつくりあげていきます。

このような建設業の魅力により私は、現在大学進学を目指しています。大学では、さらに建設業の見聞を深め、高度な技術や技能を身に付けることを目指していきたいと思っています。そして、将来、建設業に携わる仕事に就き建設業の魅力を多くの人に伝えていきたいと思っています。